

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人宮城福祉会		
事業所名	うぐいすの里こもれびの家 (ユニット名 なでしこ)		
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	平成24年9月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年10月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周辺には、保育所、幼稚園、小中学校、診療所等があり、医療・教育・福祉が一体化しているような環境である。そのため小中学校や保育所との交流は活発に行えている。また、特養が併設してあるため多くのボランティアの訪問(踊りや歌など)があり、楽しみの一つとなっている。利用者様との関わりは、一人ひとりのペースに合わせ得意な物を行ってもらう事で役割を持ち、その人らしく楽しみを見つけながら生活していただくよう職員は心掛けている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧鶯沢町が、地域福祉の要としての期待を込めて誘致した施設で、職員も大きな期待を担った施設であると自覚している。近くには小中学校、保育園、診療所、栗原市支所があり、地域の中心的位置にある。そのようなことから、地域との交流も盛んで、特に子供達との交流は入居者の大きな楽しみとなっている。また、町内会において、「グループホームとは」についての講演を行ったりして、地域と共に歩む取り組みを行っている。居室の造りも開放的で、職員の明るい笑顔のある入居者との触合いは家族的であり、家族アンケートに安心して任せられるとの声や、自分もこのグループホームにお世話になりたい等の声があるのも納得である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(専 うぐいすの里こもれびの家) 「ユニット名 なでしこ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議を行う際には、提供しているサービスがきちんと行われているか確認を行っている。理念は見えるところに掲げたり、日誌の表紙に貼り常に確認を行なっている。	理念は、職員全員参加で決めている。理念に基づいたケアとなっているか、の振り返りの際に、食後直ぐに次の仕事に取り掛かっているとの意見があり、食後は入居者と一緒のお茶の時間を持つ事とした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所や小学校があり行事がある度に参加している。子供達とのふれあいを楽しみにしている利用者も多く、笑顔を見にこちらから散歩に行くこともある。また、地域の踊りの方など、気兼ねなく来ていただいている。	グループホームは、旧鶯沢町の中心地域にあり、色々な分野との活発な交流が行われている。小学生との雑祭り交流、町内会への出前講演、保育園児の来所等、特に子供たちとの交流は大きな楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に積極的に行っていない。今後の課題であると思われるが地域行事に積極的に参加し地域にこのような施設があり施設を利用しながら地域交流が出来る事を啓発していくことも大切だと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加いただいている方々より積極的に意見をいただき日々のケアに生かし地域活動の取り組みに活用している。推進委員は地域、市町村、家族、利用者とのバランスのとれたメンバーで開催できている。	今年度は年6回の開催に向けて偶数月の第4水曜日を開催日と定め取り組んでいる。委員には、小学校の先生、保育園の園長も参加しており、グループホームの行事計画もパリエイターに富んだものとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続きや研修・地域の検診などの情報をいただいたり細やかな対応をいただきながら連携を図っている。	入居者に関する更新手続き、生活保護に関する事務処理、施設入居者に関する情報交換、市が計画する集団検診、研修計画等常に市の担当部門、地域包括センターとの連携を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも注意している事の一つである。身体拘束や言葉での拘束が行われてないか日々目配り・気配りをし対応している。	毎月行われるカンファレンスにおいて、毎日のケアに関する各種記録をチェックして、身体拘束に触れると思われる言葉や動作等を洗い出している。該当する様な事例が見られる場合には、全員でそれを確認し意識を新たにして再発防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が十分注意をしケアを行なっている。施設内研修や、外部研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には参加している。実際いろいろな面で利用している方々について、管理者より職員に説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解いただくよう解り易く説明を行い、なるべく専門用語を用いないように努めている。特に施設内でのサービスの提供については家族との確認の元行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見をきちんと聞くよう努めている。自分から訴えの出せないような方に関しては、会話の中から聞き取り、表情等を確認しながら理解するように努めている。家族からは面会時や電話での状況報告時等に確認している。	利用料請求と同時に、日常の様子報告と担当職員からのお便りを送っている。また、2か月に1回発行の「うぐこも便り」で入居者の笑顔を届けている。訪問時に何でも言える雰囲気ホームだ、との声がアンケートにある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中で話しやすい場を作り日々の不安を聞いたり、カンファレンス、職員会議を利用し職員との意見交換の場を設定している。思うように意見が出ない事もあるが職員への周知の場は確保出来ている。	毎月行われるカンファレンスは、管理者と職員の意見の交換の場でもあるが、入居者のケアが中心で職員からの要望などが採用された実績が見られていない。	法人の経営トップが毎月各施設を訪問しており、職員の要望に関する事を聞き、意見交換が出来る機会を作るなどしていただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し法人の動向等の周知を行い働きやすい環境整備にも心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している。外部研修についても職員が満遍なく参加できるよう調整を行い研修参加の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会が開催する研修会が比較的多くあり同業者との情報交換の場として活用している。同一法人内にもGHがあり情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺った時、見学時に本人からの話を聞く事により施設への不安を取り除くように努め安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族も不安な面は多くあるので施設での生活など家族の求めている事を聞き施設側で対応できる事は行えるよう話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネージャーからも情報を貰い、必要としている支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野(料理・裁縫・畑仕事等)は職員も教えてもらい、お互い共感できるような時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌の発行、面会時に日頃の生活の様子を伝えている。必要な場合には電話連絡にて連絡を入れている。又、家族からの要望も取り入れながら共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や美容室を利用したり、地域の行事(祭り・敬老会等)に参加し今まで築き上げてきた関係が途切れない様に支えている。	入居者一人ひとりの馴染みを把握している。顔馴染みの地元の商店がお菓子を中心とした移動売店を週に1回開店しており、入居者の一番の喜びとなっている。又、週に1回の出張理髪サービスもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食堂の席の配置や日中の過ごす場所に配慮し気の合う人と過ごせるよう居心地の良い空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居しても面会に行く等し、関係を断ち切らない様にしている。また、退去する場合にも次の利用の提供先を一緒に考えている。退所された家族が顔を見せてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの思いや暮らし方の要望、意向の把握に努めているも職員の勤務体制などによって本人本位の支援が出来ていない部分もあるが、日常の会話の中にヒントとなることもあるので些細なこともきちんと観察できるよう心がけている。	ケアを通して気づいた入居者の思いを日誌に記録し、全員で話し合っ実現に向けて取り組んでいる。「ひとりで散歩したい」との思いを実現するために家族とも話し合い色々な条件付きではあるが実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報が少ないこともあるが、家族が来た時に足りない情報を提供してもらうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・身体状況の把握に努め、その状態にあった生活を送ってもらう。自分でやえるところは出来るように支援をしていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・ケアマネージャーからの意見や情報も取り入れ、介護計画を作成し毎月のカンファレンスで話し合い見直しをしている。課題となる部分は出来るだけ本人の言葉で記入している。家族の面会時には説明し捺印かサインを頂く	毎月見直しをしながら作成している介護計画は、日々の色々なケアの情報を参考にして、解決すべき課題と具体的な援助目標を全員で検討し、サービス内容を具体的に表示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌の記入の他に情報共有のノートを作り、気づきやケアの工夫を記入して全職員が共有しながら、毎日のケアや介護計画の見直しに利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況や要望に応じて、通院などの付き添いを行っている。又、入退院時の送迎や入院中の洗濯なども必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・保育所・小中学校の訪問を取り入れたり、交通安全運動にも参加し地域との関わりを持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に施設の協力医療機関での受診を行っているが、本人・家族が希望する医療機関であればそのところで受診している。又、隣接している診療所との定期的な往診がある。緊急時の対応もオンコールであるため安心である。	グループホームに隣接して診療所があり、ユニット毎週に毎週木曜日が往診となっている。診療所には歯科もあり、病院が近いことが安心であるとの家族の声がある。入居者のケアの情報も的確に主治医に届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している、特養・ケアハウスの看護師に相談・協力を貰い、体調不良者がでた場合などは医療機関への連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換に努め入退院時に向けた相談を病院・家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を家族・看護師・医師への報告を行っている。施設側で対応出来る範囲を家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	入所の契約の時点で、重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して、グループホームとして対応可能な内容について家族の理解を得ている。現状では、診療所との休日の医療連携が取れず、最終看取りまでに至らず継続し取り組み中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に施設内での医療に関する研修や救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月行っており避難経路や消火器の設置場所の確認は出来ている。地域の消防団へ応援依頼も出来ている。スプリンクラーを設置しているもののように避難させるか訓練していないと理解できないこともあり、今後も訓練が必要。	災害時の法人と行政との協力関係について、栗原市と施設の活用等に関する「締結確認書」を交わしている。11月には、夜間想定非難訓練を計画しており、職員の駆けつけ時間の測定も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉使いや声掛けの仕方に対応しているも、時折気分を害する口調で話したりしている事が見受けられる。	職員同士で、お互いの入居者との対応状況を確認し合い、問題と思われる行動等があった場合には、連絡ノートに記録し、それを回覧して情報を共有すると共に、自己反省を求める取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動(散歩、外出、行事)など、些細な事でも自己決定できるよう支援し、出来る限り希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが一人ひとりのペースに合わせ、臨機応変に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んでもらうに心掛けている。理・美容は馴染みのある場所で行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・盛り付け・片づけは個々の役割として一緒に行っている。誕生日には食べたいメニューを取り入れたり芋煮会や行事食を入れ楽しい食卓になるように心掛けている。	管理栄養士による献立が中心であるが、毎週月曜日の昼食と夕食は自由メニューで、ユニット毎に腕の見せ所となっている。食事中に、話しが弾んで箸が進まない入居者に対しても、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、バランスのとれた献立になっている。また、一人ひとりに合わせた食事形態や好みを把握し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできていないが、その方に応じた対応や声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックによりパターンの把握に努め、適時のトイレ誘導をする事により失敗やオムツの使用を減らすように努めている。	入居者の状態に合った対応をしており、出来る能力を引き出したいとの思いから2～3か月掛けて排尿時間帯のデーターを採り、トイレ誘導を繰返し布パンツへの改善に成功した入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックによりパターンの把握に努め、必要に応じて医師・看護師に相談し排便コントロールを行っている。また、牛乳や乳製品を摂ってもらったり、水分摂取量に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務の都合により時間帯は決めてしまっているがその中でも入浴するタイミングは本人に決めてもらっている。	入浴は毎日でも可であり、4人の入居者は毎日入浴を楽しんでいる。通常の入浴が困難な場合には、簡易リフトを利用し2人介助で入浴している。夕食後の夜間等の入浴希望者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室・和室・娯楽室で休息していただいている。夜間も安眠できるよう温度管理や布団の調整をこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報提供書をファイルにまとめ、内容を把握できるようにしている。変更や追加があった場合は日誌・連絡ノートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様から情報を聞き、得意分野を活かせる役割りや楽しみを作れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたりしている。また、買い物やお花見ドライブ・地域のお祭りなどに出掛け気分転換を図っている。	季節に応じた花見や紅葉見学、伊豆沼への白鳥見学、誕生日の夕食等外出の機会が多い。ある入居者は、ひとりで散歩したいとの強い要望があり、家族とも相談して1回の散歩は30分以内、雨の日は中止等の条件を付けて、午前、午後の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持してもらっている方もいるが、殆んどの方が事務所預かりになっており、必要に応じて出し入れをし使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた際にお礼の電話をかけたり、年賀状を出したり、新年の挨拶の電話をかける機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・空調・テレビの音量については適切に配慮し、季節を感じられる飾り付けや花を飾り居心地良く過ごせるようにしている。	食堂(テーブル)、畳敷きの小上がり(掘炬燵あり)、リビング(テレビ、ソファ)があり、入居者はそれぞれ好きな場所でくつろいでいる。全体的に開放感があり、色々な行事の際のスナップ写真が飾ってある。小学生との交流の写真には子供達からのお便り付きとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間として娛樂室・和室・食堂がありそれぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ってきていただくよう声をかけている少ない為、写真を飾ったり、ご家族様が面会に来た際に再度お話しをさせていただき安心できる居室作りに努めている。	各居室は、ベランダが廊下となって隣室と繋がっており、夏には皆で椅子を持ち出して花火見学をしている。仏壇や家族写真、テレビ等それぞれに好みに応じた飾りつけ等があり、風通しの良い快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ、トイレや居室が分かりやすいような表示の工夫をし、安心し自立した行動ができるように配慮している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300582		
法人名	社会福祉法人宮城福祉会		
事業所名	うぐいすの里こもれびの家 (ユニット名 れんげ)		
所在地	宮城県栗原市鶯沢南郷広面46		
自己評価作成日	平成24年9月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年10月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周辺には、保育所・幼稚園・小学校・診療所などがあり、医療・教育・福祉が一体化しているような環境である。そのため、小学校や保育所との交流は活発に行っている。また、特養が併設してあるため多くのボランティアの訪問(踊りや歌など)があり、楽しみのひとつとなっている。利用者様とのかわりには、一人ひとりのペースに合わせ得意なものを行ってもらうことで役割を持ち、その人らしく楽しみを見つけながら生活していただくよう職員は心掛けている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>旧鶯沢町が、地域福祉の要としての期待を込めて誘致した施設で、職員も大きな期待を担った施設であると自覚している。近くには小中学校、保育園、診療所、栗原市支所があり、地域の中心的位置にある。そのようなことから、地域との交流も盛んで、特に子供達との交流は入居者の大きな楽しみとなっている。また、町内会において、「グループホームとは」についての講演を行ったりして、地域と共に歩む取り組みを行っている。居室の造りも開放的で、職員の明るい笑顔のある入居者との触れ合いは家族的であり、家族アンケートに安心して任せられるとの声や、自分もこのグループホームにお世話になりたい等の声があるのも納得である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 うぐいすの里こもれびの家 )「ユニット名 れんげ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を作成している。ケア会議を行う際には理念に基づいたサービスが提供されているか確認を行っている。又、理念は業務日誌やホーム内に掲示し常に確認できるようにしている。	理念は、職員全員参加で決めている。理念に基づいたケアとなっているか、の振り返りの際に、食後直ぐに次の仕事に取り掛かっているとの意見があり、食後は入居者と一緒のお茶の時間を持つ事とした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に保育所、小中学校があり行事等での交流を行っている。夏祭りなど地域の行事に参加し地域住民との交流を図っている。又、地域のボランティアの踊り等の訪問を積極的に受けている。	グループホームは、旧鶯沢町の中心地域にあり、色々な分野との活発な交流が行われている。小学生との雑祭り交流、町内会への出前講演、保育園児の来所等、特に子供たちとの交流は大きな楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に積極的に行っていない。今後の課題ではあると思われるが地域行事に積極的に参加し地域にこのような施設があり施設を利用しながら地域交流が出来る事を啓発していくことも大切だと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加いただいている方々より積極的に意見をいただき日々のケアに生かし地域活動の取り組みに活用している。推進委員は地域、市町村等のメンバーで開催している。	今年度は年6回の開催に向けて偶数月の第4水曜日を開催日と定め取り組んでいる。委員には、小学校の先生、保育園の園長も参加しており、グループホームの行事計画もパリエイターに富んだものとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続きや研修・検診などの情報をいただいたり細やかな対応をいただきながら連携を図っている。	入居者に関する更新手続き、生活保護に関する事務処理、施設入居者に関する情報交換、市が計画する集団検診、研修計画等常に市の担当部門、地域包括センターとの連携を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも注意している事の一つである。身体拘束や言葉での拘束が行われてないか日々目配り・気配りをし対応している。	毎月行われるカンファレンスにおいて、毎日のケアに関する各種記録をチェックして、身体拘束に触れると思われる言葉や動作等を洗い出している。該当する様な事例が見られる場合には、全員でそれを確認し意識を新たにして再発防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人十分注意しながらケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用が必要な方には関係機関との連絡をとり制度を活用していただき管理者より職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解いただくよう解り易く説明を行いなるべく専門用語を用いないように努めている。特に施設内でのサービスの提供については家族の確認の元行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見をきちんと聞くように努めている。自分から訴えの出ないような方には会話の中から聞き取り表情等を確認しながら理解するように努めている。家族からは面会時や電話での状況報告時に確認している。	利用料請求と同時に、日常の様子や報告と担当職員からのお便りを送っている。また、2か月に1回発行の「うぐこも便り」で入居者の笑顔を届けている。訪問時に何でも言える雰囲気ホームだ、との声がアンケートにある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中で話しやすい場を作り日々の不安を聞いたりカンファレンス、職員会議を利用し職員との意見交換の場を設定している。思うように意見が出ない事もあるが職員への周知の場は確保出来ている。	毎月行われるカンファレンスは、管理者と職員の意見の交換の場でもあるが、入居者のケアが中心で職員からの要望などが採用された実績が見られていない。	法人の経営トップが毎月各施設を訪問しており、職員の要望に関する事を聞き、意見交換が出来る機会を作るなどしていただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を利用し法人の動向等周知を行い働きやすい環境整備にも心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加している。外部・内部研修についても職員が満遍なく参加できるよう調整を行い研修参加の機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会が開催する研修会が比較的多くあり同業者との情報交換の場として活用している。同一法人内にもGHがあり情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺った時や見学に来た時に本人からの話を聞く事により施設への不安を取り除くように努め安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様に家族も不安な面は多くあるので施設での生活など家族の求めている事を聞き施設側で対応できる事は行えるよう話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネージャーからも情報をいただき必要としている支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き等の家事仕事をさせていただいたり本人の得意分野(料理・裁縫・畑仕事等)を職員が教えていただいたりお互いが共感出来るような関係作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や広報誌の発行、面会時に日頃の生活の様子を伝えている。必要な場合には電話連絡にて連絡を入れている。又、家族からの要望を取り入れたり行事への参加を促し共に支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や美容院を利用したり地域の行事(夏祭り・敬老会等)に参加し今まで築き上げてきた関係が途切れない様に支えている。	入居者一人ひとりの馴染みを把握している。顔馴染みの地元の商店がお菓子を中心とした移動売店を週に1回開店しており、入居者の一番の喜びとなっている。又、週に1回の出張理髪サービスもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し食事の際の席の配置や日中の過ごす場所に配慮し気の合う人と過ごせるよう居心地の良い環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された場合でも面会に行き関係性を絶やさない様になっている。退去される場合に次の利用の提供先を一緒に考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの思いや暮らし方の要望、意向の把握に努めるようにしている。日常の会話の中にもヒントとなることもあるので些細なこともきちんと観察するように心がけている。	ケアを通して気づいた入居者の思いを日誌に記録し、全員で話し合っ実現に向けて取り組んでいる。「ひとりで散歩したい」との思いを実現するために家族とも話し合い色々な条件付きではあるが実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人からの情報でこれまでの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム・身体状況の把握に努めその人の状態にあった生活を送っていただくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況や本人・家族からの意見や情報を取り入れ介護計画を作成し毎月のカンファレンスで話し合いを行っている。課題となる部分は出来るだけ本人の言葉で記入している。又、家族の面会時に計画書の説明を行っている。	毎月見直しをしながら作成している介護計画は、日々の色々なケアの情報を参考にして、解決すべき課題と具体的な援助目標を全員で検討し、サービス内容を具体的に表示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌の記入の他に情報共有のノートを作り気づきやケアの工夫を記入・供覧する事で日々のケアや介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況や要望に応じて通院、外出の援助を行っている。入退院時の送迎、入院時の洗濯ものの回収なども必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・保育所・小中学校の訪問を取り入れたり夏祭りや交通安全運動等に参加し地域との関わりを持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関での受診を行っているが本人・家族が希望すれば希望する医療機関での受診を行っている。隣接する診療所での定期的な往診を行っており薬等の変更等は記録に残している。	グループホームに隣接して診療所があり、ユニット毎に毎週木曜日が往診となっている。診療所には歯科もあり、病院が近いことが安心であるとの家族の声がある。入居者のケアの情報も的確に主治医に届いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養看護師と連携をとり状態報告や相談、処置、受診時の援助等の適切な看護が行われるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と施設での情報交換に努め入退院時に向けた相談を病院・家族と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を家族・看護師・医師への報告を行っている。施設側で対応出来る範囲を家族へ説明し以後の方針の共有を行っている。	入所の契約の時点で、重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して、グループホームとして対応可能な内容について家族の理解を得ている。現状では、診療所との休日の医療連携が取れず、最終看取りまでに至らず継続し取り組み中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での医療に関する研修や救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を月1回行っており避難経路や消火器の設置場所の確認をしている。地域の消防団への応援依頼もしている。	災害時の法人と行政との協力関係について、栗原市と施設の活用等に関する「締結確認書」を交わしている。11月には、夜間想定非難訓練を計画しており、職員の駆けつけ時間の測定も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた言葉使いや声掛けに注意するも時折、口調が強くなったり早口で話すなど配慮に欠ける部分も見受けられる。	職員同士で、お互いの入居者との対応状況を確認し合い、問題と思われる行動等があった場合には、連絡ノートに記録し、それを回覧して情報を共有すると共に、自己反省を求める取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動(散歩、外出、行事)など本人の希望を尊重し出来るだけ希望に叶うよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせた支援を心掛けているが時に業務に合わせさせてしまっている時が見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に衣類を選んでいただいたり、なじみの美容院へ行き、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・盛り付け・片付けは個々の役割として一緒に行っている。誕生日には食べたいメニューを取り入れたり季節ごとの行事食も提供している。献立は管理栄養士が作り栄養のバランスのとれたメニューになっている。	管理栄養士による献立が中心であるが、毎週月曜日の昼食と夕食は自由メニューで、ユニット毎に腕の見せ所となっている。食事中に、話しが弾んで箸が進まない入居者に対しても、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態により食事形態を変えている。摂取量が不十分な方には栄養士、看護師の指示の元、補助食品の提供、必要な水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力により義歯洗浄の支援、声掛け等の援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し定時のトイレ誘導をする事により失敗やおむつの使用を減らすような支援をしている。	入居者の状態に合った対応をしており、出来る能力を引き出したいとの思いから2～3か月掛けて排尿時間帯のデータを探り、トイレ誘導を繰り返し布パンツへの改善に成功した入居者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし必要に応じて医師・看護師の指示の元、下剤を使用している。又、水分摂取や乳製品の摂取で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴者は決まっているか本人の意思、身体状況で入浴日を変えている。拒否がある方には時間をおいて声掛けする、職員を変えてみる等で入浴を促している。業務の関係上、時間帯を決めてしまっている。	入浴は毎日でも可であり、4人の入居者は毎日入浴を楽しんでいる。通常の入浴が困難な場合には、簡易リフトを利用し2人介助で入浴している。夕食後の夜間等の入浴希望者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムや体調に合わせて居室・和室・娯楽室で休息していただいている。夜間も室温管理、布団の調整で安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書をファイルし内容確認ができるようにしている。変更があった場合には日誌、連絡ノートに記入し申し送っている。症状に変化があった場合には速やかに医師・看護師へ連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から情報をいただき得意分野を活かした役割や楽しみ事ができる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけている。時間とコースを決めて一人で散歩へ出掛けている方もいる。ドライブ、地域行事への参加も行っている。	季節に応じた花見や紅葉見学、伊豆沼への白鳥見学、誕生日の夕食等外出の機会が多い。ある入居者は、ひとりで散歩したいとの強い要望があり、家族とも相談して1回の散歩は30分以内、雨の日は中止等の条件を付けて、午前、午後の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理ができる方はお金を所持している。管理ができない方は事務所で管理し必要な物は職員が代行購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する人がいれば電話をかけ会話をしたり来た電話を本人に取り次いだり年賀状を送るなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明・空調・テレビの音量等には適切に配慮し季節ごとの飾りや花などを飾り居心地良く過ごせるようにしている。又、掘りコタツがあり馴染みの環境作りをしている。	食堂(テーブル)、畳敷きの小上がり(掘炬燵あり)、リビング(テレビ、ソファ)があり、入居者はそれぞれ好きな場所でくつろいでいる。全体的に開放感があり、色々な行事の際のスナップ写真が飾ってある。小学生との交流の写真には子供達からのお便り付きとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間として娯楽室・和室・リビングがありそれぞれ好きな場所が確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただくように声掛けしている。写真などを飾り居心地がよい環境作りに努めている。	各居室は、ベランダが廊下となって隣室と繋がっており、夏には皆で椅子を持ち出して花火見学をしている。仏壇や家族写真、テレビ等それぞれに好みに応じた飾りつけ等があり、風通しの良い快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等が分かりやすいように表示しており廊下には手すりが設置され歩行しやすい環境作りをし安心した生活ができるようにしている。		